

令和3年度 自己評価結果公表シート

認定こども園ひがしなるさわ幼稚園

1、本園の教育・保育目標

元気で明るいこども
自分でできることは自分ですること
みんなと仲良く遊べる

- ・生活スタイルの違う児童が入所する認定こども園としての特性を踏まえ、一人一人の発達の過程を理解し、在園時間の長短に配慮した教育・保育を行う。
- ・多様な保育ニーズに対応するため、親子の集いの場事業提供や一時預かり事業、延長保育を実施する。

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

自己点検、自己評価を実施し、教育内容の改善に取り組むと共に、子どもの育ちを保障していくため一人ひとりの姿を職員間で共有しながら園全体として整えていく。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

《評価》 A：達成されている B：取り組んでいるがまだ不十分 C：全くできていない D：分からない

評価項目	評価	取組状況
幼保連携型認定こども園についての理解	B	幼保連携型認定こども園についての法令を知るとともに、幼稚園と幼保連携型認定こども園の違いを理解し、保護者・来園者に分かりやすく説明できるように努めている。
保育理念・保育・教育目標の理解	B	毎年指導計画に加筆、修正を行い、子どもの実態に即した内容にするよう努めている。
療育支援の理解と取り組み	B	特別な支援の必要な子どもへの個別支援計画を作成し発達支援をしている。 関係機関と連携し保育に取り組むとともに保護者の気持ちを受け止め寄り添うよう努めている。
保健・安全管理について	B	学校保健法を把握し園児の健康についての狙い・内容を理解するよう努める。
職員間の連携について	A	保育教諭間の連携、他職種職員への報告・連絡・相談をするよう努める。
研修(園外・園内)について	C	園内外の研修に意欲的に参加し、保育の質を高めている。 自己が成長するために進んで自主研修に参加するよう努める。 各教職員が公開保育を行い、お互いの保育を見合うことによって、よりよい保育環境が構築できるよう、指摘し合うようにしている。

保護者との連携について	A	連絡帳のみに頼らず、登降園時のわずかな時間でもコミュニケーションを取る努力をしており、懇談会や保護者面談を通して保護者の子育て感を聞きとり、連携を図る。 教育・保育事業についてのアンケートを実施し、満足度を調査している。
地域子育て支援について	B	地域との交流に意義を感じ、積極的に取り組むように努めている。 未就園児親子クラスや一般開放等の充実に努める。
小学校との連携について	C	小学校との接続について教育課程に盛り込み、さらに充実した教育になるように努める。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	自己評価をすることで、一人ひとりが各分担職務を振り返る良い機会となった。職員間、保護者との連携を図り、細やかな情報の交換を大切にしていることが伺える。 園内外の研修においては、園内研修がなかなか実現出来ないところを園内研修にして、職員間の質の向上や共有に繋げていったが、まだまだ時間に余裕がない現状である。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
健康・安全への配慮	健康・安全管理面では、今後も新型コロナ対策が必要となるため、手洗いうがい、消毒の徹底、必要に応じて以上児のマスク着用を実施し、家庭にも感染対策の協力を呼びかける。子どもの育ちや体験を出来る限り確保しつつ、周りの大人たちによる意識や行動で対応する。
研究・研修	可能な範囲で zoom、オンラインも取り入れながら、園外研修及び園内研修に参加し、情報を共有することで幼児理解を深め、教育の質向上を図る。 子どもの共通理解を深めるよう定期的に職員全体で話し合い要点を記録する。
幼小接続	幼稚園と小学校の連携をとり、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して教育の接続を図る。コロナ禍で小学校との連携が難しいため、絵本、教材等も使ってで興味、関心に繋げていく。

6、財務状況

公認会計士の監査により、適正に運営されていると認められる。
